

豊かな尾瀬の自然を後世に伝えるために

小鮎 守 (NPO 法人尾瀬自然保護ネットワーク)



キーワード：尾瀬国立公園、至仏山、燧ヶ岳、生物多様性、自然保護・保全、地球暖化

1 はじめに

NPO 法人尾瀬自然保護ネットワークは、私達の前身である「尾瀬の自然を守る会」は 1971 年に発足し、1996 年 12 月 8 日の総会をもって 25 年間にわたる活動の幕を閉じました。三平峠の自動車道建設問題をきっかけに結成された同会は、奥鬼怒スーパー林道問題、汚水処理問題等の解決、ごみ持ち帰り運動、尾瀬の利用に関わる提言など多くの活動を展開して来ました・・・そして、1997年発足のNPO 法人尾瀬自然保護ネットワークでは 意思を引き継ぎ、「自然保護指導員養成講座」などの人材育成や 環境保護活動を通して尾瀬の自然を後世まで残そうと取り組んで居ります・「尾瀬の自然を守る会」で培った自然保護思想や現地指導のノウハウを生かし、貴重な尾瀬の自然を後世に残すために、有志によるボランティア活動として地道な取り組みをして来ました。貴重な自然遺産である尾瀬国立公園を守るために、広く一般市民を対象に、入山指導、自然解説、自然観察会、自然保護指導員の育成を通して自然保護に関する普及・啓発活動を行っています。45年の活動の実績を持つ本会は、これからも、自然環境や景観の維持保全を図り、自然と人間が共存できる豊かな社会の実現を目指して行きたいと考えています。

理事長挨拶

私たちは“貴重な尾瀬の自然を後世に伝えよう”をモットーにして、尾瀬国立公園で自然保護の実践活動を行っている民間のボランティア団体です。その主な活動は、尾瀬を訪れるハイカーを対象にした自然環境教育事業、尾瀬の自然保護に関する調査研究事業および自然環境保護に関する普及啓発活動などを通じて、自然と人間が共存できる豊かな社会の実現を目指しています。尾瀬という言葉を聞くと、皆さんはどのようなイメージをお持ちになるでしょうか。広大な湿原に真っ直ぐ延びる木道、雪解け水に微笑むミズバショウ、生命感あふれるニッコウキスゲの大群落あるいは狐色に輝く草紅葉など、大自然の風景を思い起こすでしょう。しかし、これらの尾瀬を代表する自然も絶えず変化しています。例えば、ニッコウキスゲの大群落はニホンジカの食害により激減してしまい、もはや過去の風景になってしまいました。尾瀬の自然は湿原・池塘・湖・山岳など極めて繊細で脆弱な生態系によって成り立っています。学術的にも非常に高い価値を有し、人為的影響を最小限に抑えなければならない貴重な自然です。その利用には細心の注意が必要です。このため尾瀬の核心部 (9,386ヘクタール：尾瀬全面積の25%) は法律によって「特別保護地区」と「特別天然記念物」に指定され、厳重に保護しなければならない自然として、現状変更や自然を傷つける行為は禁止もしくは厳しく制限されています。最近の尾瀬は、ニホンジカの増加による高山植物の食害と湿原の掘り起し(裸地化)が大きな問題となっています。さらに至仏山や燧ヶ岳の登山道の荒廃と植生復元、鳩待峠の一極集中入山、負の遺産問題(過去のゴミ大量投棄の後始末)、木道や公衆トイレ等のインフラの維持管理など、大小様々な課題を抱えています。周りの環境変化に気が付かず、いわゆる「ゆでガエル現象」に陥らないためにも、安易に都会の利便性を持ち込む施策や観光地化を目指すような利用は戒めなければなりません。特に「特別保護地区」においては、厳正な保護と秩序ある利用とのバランスを図ることが重要と考えます。

生物多様性の確保に重点を置いた長期ビジョンに基づき、各種施策が着実に実施されることを切に願っています。

私たちは尾瀬を訪れた時のあの感動を次世代に伝えるために、特定非営利活動法人(NPO)としてフィールド重視の実践活動を通じて、尾瀬国立公園の自然保護活動に取り組んで参ります。皆様方のご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。特定非営利活動法人 尾瀬自然保護ネットワーク 理事長 磯部 義孝 (HP掲載より)

2 主な活動

○入山指導とバス添乗解説

6月から10月にかけて、福島県側・群馬県側で主に御池ロッジと鳩待峠周辺で、リーフレットを配布しながら入山指導を実施。最新の尾瀬情報を伝えつつ自然保護や安全面について伝えている。また、尾瀬御池-沼山峠登山口では、バス添乗により自然保護の重要性を解説。



○鹿による植物への被害状況調査

ライトセンサス調査により尾瀬ヶ原に生息するニホンジカの数を調査。また、大江湿原・尾瀬ヶ原ではニッコウキスゲへの食害状況を確認。



○移入植物の除去作業

侵略的外来植物である移入植物(オランダガラシ)の現状調査を行い、白砂湿原にて抜き取り作業を実施。



2011年10月8日の作業では、8.3kgを除去。

○尾瀬ヶ原周辺外来種調査 2017

初めて尾瀬地域の本格的な植生調査が行われたのが第一次尾瀬学術調査です。原 寛・水島正美両先生を中心に調査され1954年に整理化されました。当時に確認された植生は約690種、外来種はオオバコやスズメノカタビラなど7種が確認されました。

【外来種はどのくらい侵入？】

尾瀬の植生、特に高山植物などは図鑑などで詳細に見ることが可能ですが、一体尾瀬にはどの程度の外来種が入り込んでいるのか、なかなか見えづらいのが現状です。第一次学術調査以来、尾瀬保護専門委員の方々から報告された植生報告書<尾瀬の自然保護(群馬県)1978年～、尾瀬の保護と復元(福島県)1970年～>や書籍、環境省管理報告書などを利用し、どのような種が外来種として報告されたのか、文献より抽出してリスト化を試みました。約60年間にわたるタ



ト外来種と指摘された種数は、延べ124に及びても50種を超える外来種が指摘されています。また尾

尾瀬全体の植生調査は短時間ではできず年月がかかります。ましてや会津駒ヶ岳や田代山も尾瀬国立公園に編入され、調査のフィールドはかなり広がりました。詳細は2017年より始まった第四次尾瀬学術調査の調査結果（基礎調査）を待ちたいと思います。考えたくはありませんが、尾瀬植生の5%以上も外来種……とならないことを祈りたいです。



<エゾノギシギシ>

■国産外来種ワースト3.

過去30年以上にわたり大規模に繁殖 オオバコ、スズメノカタビラ、イヌタデ（アカマンマ）

■海外外来種ワースト6.

過去30年以上にわたり大規模に繁茂ヒメジョオン（北米）、シロツメクサ（欧）、エゾノギシギシ（欧）、オランダガラシ（クレソン）（欧）、コカナダモ（北米）、カモガヤ（欧/アジア）、クサイ（北米）、

【当会の調査】

私たちは2017年秋（9/30）に群馬側の鳩待峠と山の鼻周辺で外来種調査を行い、確認された外来種は30種を超えました。調査の中で、尾瀬保護専門委員による調査データでは一度も登場していない

「ドクダミ」の群落まで新発見（？）をしました。（表：「ご参考」参照）

【外来種は減らせるのか】

尾瀬保護専門員の指摘によれば山の鼻地区と並んで、外来種が繁茂している個所は、尾瀬沼集団施設と下田代集団施設です。問題はどこにある。

○地球温暖化の影響調査

標高2000mの笠ヶ岳で、高山植物の分布調査。また、大津岐峠に向かう登山道で、ツバメオモトの分布状況を調査。（3年以上の継続調査として実施）1-③

・

・ 笠ヶ岳(植生調査)

至仏山登山口から笠ヶ岳分岐地点までは連日の快晴のため登山道も乾燥気味で登山は順調であったが、相変わらずの樹林帯の悪路は進行中で早急に修繕が必要と思えた。

笠ヶ岳分岐からすぐに悪臭に襲われ、周りにトイレ大跡を発見、早急に対策を望むところです。

笠ヶ岳の登山道には、小さな残雪が5ヶ所あり今年の降雪の多さを知らされた。

調査地点は小笠側と中央地点の2ヶ所で実施。今回の笠ヶ岳周辺は季節が6月頃を思わせる、チングルマを代表に咲きほこっていた。季節感がだいぶ違っていた。NO1 笠ヶ岳 2000m 地点では、15種 254本・NO2、950m 地点 15種 584本の調査結果であった。

NO1 笠ヶ岳東肩(標高 2000m)		NO2小笠南面(1950m)	
植物名	数量	植物名	数量
イワカガミ	6	イワカガミ	137
チングルマ	39	チングルマ	170
キンコウカ	77	モウセンゴケ	87
ヒメシャクナゲ	6	タテヤマリンドウ	1
ハクサンイチゲ	30	ササ	29
ジョウシュウオニアザミ	8	ヒメシャクナゲ	6
ミヤマウイキョウ	10	ハクサンイチゲ	6
ミヤマダイヤモンドソウ	12	キスゲ	1
タカネニガナ	30	コバイケイソウ	1
キスゲ	13	イワイチョウ	56
エゾチドリ	4	クロウスゴ	2
ショウジョウバカマ	1	タカネシオガマ	2
キジムシロ	3	オオレン	83
クロウスゴ	5	オノエラン	2
コバギボウシ	1	キンロバイ	1
合計	254	合計	584

1-④外来移入植物調査

尾瀬ヶ原山小屋付近で調査を実施。今後の課題、これらを除去・方法・継続調査

1-⑤チョウの調査

尾瀬を代表する、ニッコウキスゲにおける訪問昆虫であるマルハナバチの受粉状況の観察を行いました。研究見本園内2ヶ所15株を観察。7月12日の花を観察しその後7月25日に受粉状態を確認。本年は15花のうち3花の受粉が見られたが他は落花で原因は不明。(考えられるものは、気象の異変・シカの食害・花の衰弱等である)

尾瀬の負の遺産への対応 (過去のごみ投棄問題)

尾瀬には、負の遺産として、現在に至るも、過去に捨てられた空き瓶や空き缶などの膨大な



ゴミ問題が残されている。本会としては、尾瀬沼東岸で、手作業によるゴミ拾い活動を実施。

○至仏山登山における、トイレ問題の提起

至仏山登山には、7時間以上にも及ぶ時間を要した貴重な高山植物の宝庫であるにもかかわらず、国立公園内で在り、トイレの設置がないため至る所に糞尿の跡が散見される。

当会でわ、2015年より、トイレアンケートを実施しながら、至仏山入山時に携帯トイレの持参と普及を



呼びかけている。また行政や各団体への提言と連携を実施。

至仏山携帯トイレに関するアンケート

至仏山携帯トイレアンケート

アンケートは、各入山指導に合わせ鳩待峠至仏山登山口付近で計4回実施 6月12日-13枚・7月12日-30枚・7月25日-38枚・10月17日24枚 その他登山関係先依頼分42枚で総計147枚の回答を得られた。

実施報告 尾瀬自然保護ネットワーク 群馬 小鮎 守 2017/11報告

その他のご意見など!!

今年度は、トイレアンケートの他至仏山のトイレ汚染場所の特定の為7月1日と8月11日で調査

当日のトイレ痕跡は(糞・尿臭・ティッシュ)で確認した場所

1. 山ノ鼻-高天原間樹林帯
2. 至仏山山頂下岩陰
3. 至仏山-小至仏山中間・ハイマツ帯
4. オヤマザワ田代-笠ヶ岳分岐付近
5. 原見岩-鳩待峠間樹林帯中間点

3 至仏山登山道の現状調査と行政機関への提言と連携



○至仏山南面登山道調査(平成24年から3年カ年調査)

尾瀬の代表的な景観をなす至仏山には、貴重な高山植物があり、燧ヶ岳とともに名山に数えられる標高2228m景観の素晴らしい山であり年間12,000~13,000人の登山者が訪れている。この至仏山への登山道は、山の鼻からの東面登山道と鳩待峠からの南面登山道があり、東面登山道は、降雨等による崩壊で植生の荒廃が著しく平成元年より8年間登山道を閉鎖し、その修復と植生の復元を行った経緯があり、現在は「上り専用」としてのみ利用可能となっている。また、両登山道は、残雪期には閉鎖され、至仏山は、入山禁止の措置がとられている。そのため、南面登山道への利用が多くなり、加えて近年は笠ヶ岳への登山者が増える傾向もあり、往復路として益々集中が起こっている。また、平成23年7月末から8月上旬にかけての局地的豪雨により、登山道の崩壊や洗掘が進行し、植生への影響と登山道の安全性の確保が大きな課題となっている。

(別紙：至仏山南面登山道調査報告書を参照)

(別冊：至仏山東面登山道調査報告書を参照)

〈参考資料〉

尾瀬国立公園を生物多様性国家戦略 2012-2020 のモデル地区へ
—尾瀬の過剰な human-impact と管理に関する提言—

- ①利用調整地区制度の導入
- ②湿原内における木道設置の再検討
- ③環境省公認尾瀬ガイド制度の新設とガイド帯同の義務付け
- ④至仏山の全面入山禁止
- ⑤山小屋の在り方の検討

2014年1月30日 環境大臣へ

今後の課題

- * 外来植物の除去
- * 登山道の整備、オヤマ沢田代から水場までの登山道の整備
- * 携帯トイレ、鳩待峠から至仏山登山所要時間が約7時間山頂部にはトイレ設備がない、山頂近くの汚染が問題となる。
- * 至仏山植生復元
山頂直下のお花畑の荒廃・植生復元の道
- * 尾瀬入山利用料金の徴収
環境維持整備基金
尾瀬の利用と自然保護 ・適正利用とルール作り

4 おわりに

◆「尾瀬アゲミ」開講のお知らせ

自然保護活動を共に行っていただく、“尾瀬インタープリター養成講座”の受講生を募集しています。講座は、群馬県側と福島県側で、毎年2回（7月と10月）の現地研修で行っています。詳細については、HP募集要項をご覧ください。



Web <http://www.oze-net.com/index.html>

尾瀬ネットワーク

検索

